

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

最円高週間到来 (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 武富 龍太

今週のドル円予想レンジ **109.50 ~ 111.00**

りそなWEEKLY COLUMN

MLBの「粘着物質検査」の影響 ～大谷選手の快進撃との関係？ (P3)

りそな銀行 市場トレーディング室
伊藤 一輝

- 米野球メジャーリーグでは今季6月より粘着物質検査を厳格化
- 足元の防御率悪化・被本塁打数の増加は「打者優位の季節性」の影響もあるか
- ドル円も7-9月は「円高の季節性」

2021/7/26

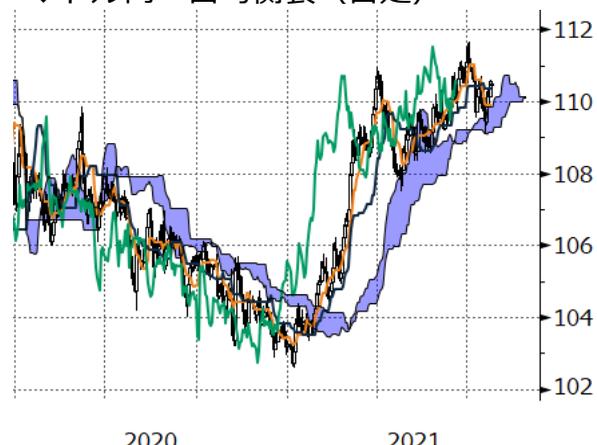
りそな外為レポート

最円高週間到来

今週のドル円予想レンジ **109.50 ~ 111.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

「問題1」：2011年～2020年の10年間の月別ドル円騰落を調べたとき、最も円高になっている月は何月でしょうか？
 『答え』：7月です。7月は10年平均で▲0.86%(72銭)円高になっており、2位の4月▲0.64%を抑えて最も円高になっている月です。
 「問題2」：では、7月のなかで最も円高になっているのはいつ頃でしょうか？
 『答え』：最終5営業日間です。この5営業日平均で▲71銭円高と月間下落のほとんどは最終5営業日によるものです。最も円高になる月の最も円高になる週(最円高週間)です。
 「問題3」：今年の7月最終5営業日(今週)は、どうなりますか？
 『答え』：りそなグループのディーラーにご確認下さい。優秀なメンバーが揃っていますので、最適なアドバイスをさせていただきます。
 日本連休中は、米株が再び最高値を更新するなどリスク心理が改善し、ドル円は円安が進行。しかし、デルタ変異株拡大や景気ピークアウト懸念は依然として残っており、今週は過去データ通りダウンサイドに警戒。
 (カスタマーディーラー 武富 龍太)

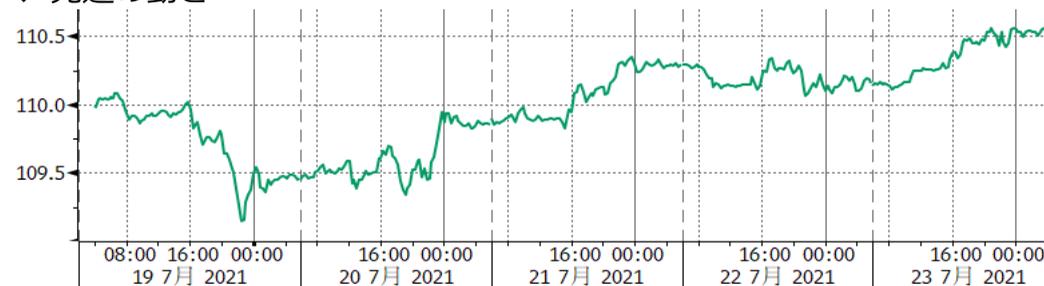
◆今週の日程

27日(火) 日	40年債入札	29日(木) 米	21/2QGDP速報値
27日(火) 米	5月住宅価格指数	30日(金) 日	6月失業率
27日(火) 米	7月消費者信頼感指数	30日(金) 日	6月鉱工業生産
28日(水) 米	FOMC(結果発表)	30日(金) 日	6月新設住宅着工戸数
28日(水) 米	6月貿易収支	30日(金) 欧	21/2QGDP速報値

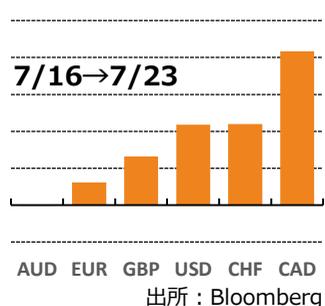
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 7月23日(金) 110.55円 VS 7月30日(金)

東京						大阪(りそな)				埼玉				大阪(関西みらい)				神戸													
井口	小林伸	石川	田中	中里	范	伊藤	村永	岩田	小林翔	上野	曾根	鈴木	武富	湊真	中太	石井	中根	津田	佐藤	中山	内田	荻窪	藤森	三好	石田	尾股	中野	荻谷	辻村	山木	下川
↑	↑	↓	↑	↑	休	↑	↑	↑	↑	↑	休	↓	↓	↑	↑	↓	↑	休	休	↑	↑	↑	↓	休	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
 お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/7/26

りそな WEEKLY COLUMN

MLBの「粘着物質検査」の影響～大谷選手の快進撃との関係？

- 米野球メジャーリーグでは今季6月より粘着物質検査を厳格化
- 足元の防御率悪化・被本塁打数の増加は「打者優位の季節性」の影響もあるか
- ドル円も7-9月は「円高の季節性」

りそな銀行 市場トレーディング室
伊藤 一輝

➤ 日本人メジャーリーガーの活躍

今年は日本人メジャーリーガーの活躍が目立つ。中でも、ア・リーグの本塁打王争いを演じる大谷翔平選手の注目度は突出している。オールスター以前のシーズン本塁打33本のうち、6月以降の月間本塁打数は実に18本を数える。開幕当初より勢いを増している印象だ。大谷選手の活躍は紛うことなき事実なのだが、今回は大谷選手ら強打者と対峙するピッチャーの側にスポットライトを当ててみたい。

➤ 粘着物質使用のチェック

去る6月15日、米国野球メジャーリーグ(以降、MLBと略す)では、登板する投手が粘着物質を使用していないか、厳しいチェックを行うと発表した。翌週より検査が開始となり、登板する全投手に対して審判がボディチェックを行うこととなった。2021年シーズンのMLBルールブック6.02(c)Pitching Prohibitions(3)項によれば
The pitcher shall not apply a foreign substance of any kind to the ball;
とあり、ピッチャーによる異物の付着は元々禁止されている。それでも一部の投手が松ヤニや日焼け止めなどを滑り止めとして利用していたという。MLBの試合で使われるボールは非常に滑りやすいのだ。

検査で「不正」が発覚する選手には退場処分に加え、10試合の出場停止が科される。調べてみると既に処分を受けた選手がいるため、実効性は十分あるようだ。足元の影響を検証する。

使用する投手指標は以下の3つである。MLB全30球団それぞれの値を集計し、平均値を6月15日前後で比較する。

- ① ERA・・・防御率(チームが9イニングあたり何点失点したかを示す※1)
- ② 被本塁打数・・・被本塁打数(チームが9イニングあたりHRを何本打たれたかを示す)
- ③ K/BB比率・・・奪三振と四球の比率(ピッチャーの制球力・コントロールを示す代表的指標)

※1 自責点ベースで計算

※2 三振以外のアウトを考慮できない点、注意が必要である。



2021/7/26

りそな WEEKLY COLUMN

検査と投手の成績の関係



次の表1では、2021年の①ERA、②被本塁打、③K/BB比率について示した。
※2020年シーズンは開幕が7月に延期されたため、データ集計していない。

ERA(チーム防御率)	2021年
開幕～6/14	4.11
6/15～オールスターゲーム	4.44
悪化or改善	0.33悪化

被本塁打数/9イニングあたり	2021年
開幕～6/14	1.19
6/15～オールスターゲーム	1.31
悪化or改善	0.12悪化

K/BB比率(投手の制球力)	2021年
開幕～6/14	2.77
6/15～オールスターゲーム	2.6
悪化or改善	0.17悪化

表1 今年の投手指標を6月中旬以前で比較

出所：Fan Graphs

2021年は6月15日前後で3つの投手指標いずれも悪化が認められ、一見すると「粘着物質の検査が影響している」ように感じられる。

しかし表2によれば、2015～2019年シーズンでも6月中旬以降に防御率・被本塁打数の指標の悪化が目立つ。

ERA(チーム防御率)	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
開幕～6/14	4.13	3.84	4.32	4.05	4.43
6/15～オールスターゲーム	4.49	3.77	4.47	4.31	4.66
悪化or改善	0.36悪化	0.07改善	0.15悪化	0.26悪化	0.23悪化

被本塁打数/9イニングあたり	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
開幕～6/14	1.13	0.95	1.25	1.14	1.37
6/15～オールスターゲーム	1.26	0.97	1.33	1.15	1.44
悪化or改善	0.13悪化	0.02悪化	0.08悪化	0.01悪化	0.07悪化

表2 過去5シーズンのERAおよび被本塁打数の推移

出所：Fan Graphs

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/7/26

りそな WEEKLY COLUMN

➤ 季節性が影響している可能性

打者の慣れによるものなのか、気温上昇に伴うボールの飛距離の問題なのかはハッキリしないが、投手が劣位となる何らかの季節性も疑われる。結論を急ぐのは早いであろう。一見もっともらしい結論の背景に季節性があるというのは興味深い。

季節性といえばマーケットの世界でもよく語られるアノマリーのひとつである。例えば、為替市場では、7月から9月は円高になりやすい季節性が観測される。「何で円高なのか？」よくわからないときに、季節性で片づけられると納得いかないこともあるが、冷静に受け止める必要もあろう。理屈の通らない円高、円安への備えは是非当社にご相談ください。

